

— 夏季大学雑感 —

第15回夏季大学『新しい気象』講座 開催結果報告

(財)日本気象協会北海道本部 佐々木 浩

第15回夏季大学『新しい気象』講座が、下記の内容で開催されました。

今回は、4年連続で行ってきた「星・宇宙」に関する講義を一休みにし、阪神淡路大震災、気候、地球環境問題、1996年1月の札幌・小樽の大雪に関連した講義としました。

各講義では札幌や北海道に関連した身近な話もあり、勉強になったという感想が受講者のアンケートの回答に多くありました。例えば、地震の講義では、北海道大学構内の遺跡に液状化現象の痕跡がみられ、札幌でも過去大きな地震が発生していたことがわかっているという話が、また、酸性雨の講義では、北海道の場合、融雪初期の濃縮された酸性の高い融雪水の生態系への影響が懸念されるという話がありました。

受講者には、中高年の方、リピーターの方が目立ち、2日間ともほぼ講義室は満員でした。昨年、講義室が暑いという指摘があった札幌市青少年科学館は、リニューアルしたばかりで、講義室はクーラーも効き、快適でした。今回の反省点としては、札幌市青少年科学館のOHPのスクリーンが小さく、後方の受講者に見えにくかったことがあげられます。これには、よりシンプルな図表作りを講師の方をお願いすることも必要と思われる。

来年度の講座については、雲、火山、オゾン層、火星探査等のテーマや気象観測実習を入れて欲しいという要望があります。来年度もこれらの要望を考慮し、札幌市青少年科学館と協力して、より楽しく勉強していただける講座の開催を目指したいと思います。

最後になりましたが、今回の講座開催に当たりまして、会場の準備や接待役を快く引き受けていただいた札幌市青少年科学館の学芸課、札幌管区気象台の気候・調査課と業務課の皆さんに、この紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

記

第15回夏季大学『新しい気象』講座

主催：札幌市青少年科学館・日本気象学会北海道支部

日時：1997年7月30,31日 10時00分～15時00分

場所：札幌市青少年科学館（7月30日）、札幌管区気象台（7月31日）

講義：1 講目 「北海道に被害を与える地震」 (本谷 義信)

2 講目 「気候・季節・暦の話」 (竹谷 良一)

3 講目 「降水の酸性化(酸性雨)」 (野口 泉)

4 講目 「大雪発生のメカニズム」 (藤吉 康志)

見学：札幌市青少年科学館、札幌管区気象台

受講者数：1日目；52人、2日目；47人

第15回夏季大学『新しい気象』講座



受講風景
(札幌管区気象台)



受講風景
(札幌管区気象台)



札幌管区気象台
見学風景